

## 【優秀賞】

### 学んだ心

玉名市立小天小学校 4年 西坂 明莉

わたしは、「布田保之助の心」を読んで、学んだ心が二つあります。

一つ目は、「工夫をしつづける心」です。保之助の考えは、はじめはだれにも賛成してもらえませんでした。

「深い谷をこえて水を送ることなんかできるもんか。」

こう言われても、水を送る仕組みを研究し、ためし、失敗しても、また研究し……。くじけず、工夫をつづけていった保之助に心が動かされました。わたしは、こういうのを「努力」というのだと思いました。この努力は、村人の心も変えていきます。すごいと感じました。わたしは、時間がかかることやめんどろなことは、と中で投げ出すことが多いです。そして、後かいしてしまいます。これから、自分でやりたいと一たんきめたことは、うまくいくように工夫しつづけてみようという気持ちになりました。

もう一つは、「だれかのためにがんばる心」です。保之助は、村や地いきの人々のために、田んぼに水を送るしくみを考えに考えました。それだけではありません。働いている石工の人や村人のために、毎日毎日顔を出しつづけたのです。わたしは、「自分にできるだろうか。」と考えました。保之助は、「今日一日ぐらい行かなくてもいいや。」と思ったことはないのだろうか、たずねてみたくなりました。わたしだったら、毎日なんてめんどくさくて、まずやらないと思ったからです。

なぜ、こんなにがんばりつづけることができたのか。それは、白糸台地で米を育てたいという村人の願いをかなえたいとずっとずっと考えつづけたからだと思います。水を通すことは、みんなの夢だったと分かりました。かなわないと思っていた夢がかなったのだから、保之助も村人もどれだけ大よろこびしたか想像できます。笑顔や大よろこびの声、水が流れる音がきこえてきそうです。

わたしも自分でやりたいことを見つけたら、「つづける心」を持ちたいと考えました。わたしのがんばったことが、友だちや周りの人を笑顔にできたら、最高にうれしいです。通じゅん橋見学が楽しみになりました。